

トンガ王国の音楽 渋川小児童が学ぶ

尾張旭

トンガ王国の文化などを学ぶ「学習プログラム」が4日、尾張旭市渋川小で行われ、音楽をテーマに2年生15人が学んだ。写真、尾張旭市提供。2005年の愛・地球博（愛知万博）の一市町村一國フレンドシップ事業をきっかけに交流が続いている。

日本トンガ友好協会代表で、元ラグビー日本代表のラトゥ・ウィリアム・志南利



さんらが訪問。また、国際協力機構（JICA）海外協力隊でトンガに滞在した経験のある人らでつくる会か

ら、名古屋学芸大（日進市）管理栄養学部の安達内美子教授、バイオリンリストの尾上香織さんも参加した。

安達教授が「トンガには給食がない。家に帰る子や食べない子もいる」と話すと、児童から「困る」「おなかがいちやう」との声が上がった。

渋川小では、プラスチックの大皿を太鼓に見立てた「皿太鼓」を練習しており、トンガの音楽と尾上さんのバイオリンに合わせ、児童たちが演奏を披露した。塚本華菜さん、野崎柚羽さん、岡田千穂さんの3人は「音楽が好きだから、違う国の音楽が聞けて楽しかった。尾上さんと一緒に演奏できて良かった」と笑顔で話した。休憩時間には、ラトゥさんとラグビーボールを使って遊ぶ場面もあった。

2026年(令和8年)2月17日(火曜日)

中日新聞 なごや東版